# 会　　議　　録

| | |
|---|---|
| 会　　議　　名 | 令和８年度第１回丸亀市放課後子どもプラン運営委員会 |
| 開　催　日　時 | 令和８年８月７日　10：00～11：30 |
| 開　催　場　所 | マルタス ROOM2 |
| 出　　席　　者 | 出席委員　真鍋　真紀・奥田　勉・髙橋　勝子・原田　伸二・谷川　由美<br>小山　貴彬・野崎　晃広・村尾　剛志・森本　敬子・三木　眞弓<br>欠席委員　森岡　友希子<br>事務局として出席した者　末澤　康彦教育長・山下　友通部長・土井　節子課長・<br>森　信博副課長・小野　佳代子担当長・<br>野口　耕平主任・曽川　優花主事<br>傍聴者　なし |
| 協　議　案　件 | (1) 令和８年度丸亀市放課後子どもプランの現状と課題について<br>①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について<br>②放課後子供教室推進事業について |
| 議事の経過及び発言要旨 | －開会　午前 10 時―<br>1.　教育長あいさつ<br>2.　委員長あいさつ<br>3.　議事 |
| 委員長 | まず①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について事務局から説明をお願いしたい。 |
| | 【事務局説明】 |
| 委員長 | 各委員さんから質問などがあれば発言をいただきたい。 |
| 委員 | 支援員の不足については、もう何年も前から議論されていることだ。子どもに関わる仕事がしたいという意欲ある方を採用しても、実際現場に入ると１人当たりの子どもを見る人数が多く、安全に居場所をつくることだけが仕事のようになってしまう。<br>また、支援が必要な児童が教室にいた場合についても、他の児童に危害を加えてはいけないので、支援員が見ることになるが、暴力を振るわれることもあり、現場 |

| | |
|---|---|
| | は、本当に疲弊しきっている。 |
| 委員長 | 丸亀だけの問題ではなく、どこの市町村もそうだと思う。また、校区ごとにも差があると思う。 |
| 委員 | 学校では、基本同学年で過ごすことが多いので落ち着いている子どもが、青い鳥教室は異学年の子どもたちがいるため、癇癪を起こす場合もあると聞いている。支援員 1 人当たりが見ている児童数のデータがあるが、数字だけでは、教室の運営のやりやすさは決まらないと思う。 |
| 委員 | この会議では、もう何年も同じことを話し合っているが、子どもたちの過ごす環境が改善されているわけではなく、年々悪化しているように感じる。<br>丸亀市が今後どのように安心・安全な子どもたちの居場所作りを行うかという考えを県や国に申し出るべきところまで来ているのではないか。 |
| 委員長 | これは市への宿題であるが、青い教室のどこか 1 教室を特別プログラムで動かしてみるのはどうか。まずは、1 教室をパイロット運用してみる。それで上手くいくなら、他の教室にも広げていく。現状の対策では、頭打ちになっていると思う。<br>児童の減少による利用率低下まで待つならば、それがいつになるかは分からない。市でも、今までとは違ったやり方のアプローチが必要ではないか。 |
| 事務局 | 総務課としても、支援員の負担軽減のためパソコンを導入したり、エリアマネージャー職の採用や発達障がい児等巡回相談支援事業等を行い、業務改善を行っている。おっしゃっている特別プログラムについては、青い鳥教室は学校とも密接に関わっていることから、1 教室だけ特別待遇は難しいと考える。 |
| 教育長 | 学校でも青い鳥教室でも子どもの過ごす環境や施設整備のことばかりに目を向けがちだが、これからの未来を担う子ども達を育てていくという視点がないと変わらないのではないか。 |
| 事務局 | 令和 9 年度にこども未来計画の中間見直しがある。現在のこども未来計画では、施設の広さや教室数を増やすことに着目しているが、支援員の質の確保等を計画の時点で盛り込んでいけたらと思う。 |
| 副委員長 | 学校の働き方改革同様に難しい問題だと思う。この問題は、保護者も巻き込むべき問題であり、保護者にもどうすればいいか考えてもらう場が必要だと思う。青い鳥教室にも地域の人に関わってもらい、地域にある塾等に協力をお願いしてみるのはどうか。 |

| | |
|---|---|
| 委員長 | 保護者にも現状を知ってもらうことが必要だ。保護者はサービスを受け取る側、市はサービスを提供する側ではあるが、このような状況であれば、協力してもらうことも必要だと思う。<br>次に②放課後子供教室事業について事務局から説明をお願いしたい。 |
| 事務局 | 【事務局説明】 |
| 委員長 | 各委員さんから質問などがあれば発言をいただきたい。 |
| 委員 | 子供教室のコーディネーター連絡会では、教室代表者が若い世代の方が増えており、とても良い傾向だと思う。わんぱくクラブでは、外部団体との交流を大切にし、企業訪問等を行っている。低学年が多い傾向で企画が面白くないと子どもは集まらない。わんぱくクラブでは、青い鳥教室との連携はできていないが、連携することで今の青い鳥教室の状況が少しは解決するのではと思う。 |
| 委員 | 城坤の地域協働本部では、学校の登下校の見守り等を行っている。ろうごう夢クラブでは、1 年生が少なく、高学年が多い傾向がある。子ども企画広場では、中学生が小学生に算数を教える教室とダンス教室を行っており、子ども達自身が企画をしている。ダンス教室では、カマタマーレ讃岐と協力しダンス大会を行う予定だ。 |
| 委員 | 郡家の子供教室は昨年度から開室しており、イベントの際に分からないことを飯山北の子供教室に教えていただいた。プログラムを実施するうえで横のつながりの大切さを感じた。 |
| 委員 | 子供教室はそれぞれの教室ができる範囲で活動を行っているが、日数や時間数の制限もあることから青い鳥教室利用児童の受け皿になることは難しい。そのため、青い鳥教室と子供教室が連携することで、すべての子ども達が平等に子供教室の体験活動に参加できる体制を整えることは必要だと思う。 |
| 委員長 | 委員の話にもあったとおり、子供教室は教室内容を充実してくことが必要だ。例えになるが、青い鳥教室は食事のようなもので必要不可欠だが、子供教室はデザートのようなもので、あれば嬉しいという事業の違いがある。<br>また、案外市外から来た人たちの方が地域活動の減少に危機感を持っており、Uターンで帰ってきた際に、どうにかできないか考えてくれる人が多い。<br>マルタスで子供教室新規開室募集チラシを見つけたが、新規で子供教室を開室する際の研修プログラム等はあるのか。 |
| 事務局 | 研修プログラム等はないが、昨年度郡家校区が新規開室する際には、コミュニテ |

| | |
|---|---|
| | ィセンター会長等との打ち合わせや前年度の夏休みに他校区の子供教室の見学や代表者に話を聞きに行くことに同行した。 |
| 委員 | 学校のなかでも子ども達は多様化しており、1 人 1 人違った対応が求められている。人との関りの希薄化を感じており、授業でもそういった関りを学べるような縦割りのグループ活動も実施している。教員は、年 4～5 回児童理解の研修をしているが青い鳥教室の支援員への研修はどうしているのか。 |
| 委員 | 支援員への研修は、年 4～5 回行っているが、現状でも支援員にお願いしてなんとか働いてもらっている立場になっていることから、これ以上のことを支援員に求めることはできない。<br>また、教員と支援員では立場が違い、支援員は教員のような保障もない。 |
| 委員 | 研修プログラムについては、令和 6 年度からコーディネーター養成塾を地域コーディネーターの担い手の硬直化を防ぐため、従来の推薦制から公募制に変更し、受講した方が郡家で子供教室をしてくれており、委員長のおっしゃたとおり、市外の方が危機感を持って地域活動を実施してくれている。また、昨年度には当課の担当者が直接現地に向かい、地域ごと個別相談に乗っており、すでに地域の人材は発掘しきっていると感じる。<br>地域学校協働活動ではスタッフは無償で活動を行ってくれている。この会で支援員と教員の立場が違うことは、話すことではない。青い鳥教室の活動については、もう少し細分化が必要だと思われる。 |
| 委員 | 人材はまだまだ地域に眠っている。普段からアンテナをはって、見落とさないようにしている。 |
| 委員 | 子育て支援課では、子どもの居場所プロジェクトが今年度から始まる。市内には、児童館やこども食堂があるが、青い鳥教室や子供教室とも連携し、地域にあるこども達が安心して過ごせる居場所情報等を必要とする家庭に発信していきたい。すぐに成果がでるものではないが、長い目でみながら、地域の子どもたちのためになる取り組みになると考える。 |
| 委員長 | 本日の会を終了したい。<br>―閉会　午前 11 時 30 分― |